

- 野口貴弘、鳥羽研二 大脳皮質下病変がIADL低下に与える影響
67. 第80回日本核医学会中部地方会（2015.1.31 名古屋）乾 好貴、加藤隆司、深谷直彦、伊藤健吾、櫻井 孝、鷺見幸彦、新畑 豊、武田章敬、服部英幸、遠藤英俊 Probable DLBに対するDATイメージングの初期的検討
 68. 第110回日本内科学会総会・講演会（2013.4.12-14. 東京）内科医への認知症診療アドバイス
 69. 浦上 克也、北村 伸、内藤 寛、櫻井 孝、木村 成志、涌谷 陽介、田北昌史
 70. 企画1（一般コース）「目からウロコ 明日からできる認知症診療」
 71. 企画2（アドバンスコース）「認知症診療の真髓を極める」
 72. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会総会（2013.5.16-18. 熊本）シンポジウム11「超高齢社会における糖尿病診療の問題点」櫻井 孝 認知症を合併した糖尿病診療の問題点
 73. 第14回日本認知症ケア学会（2013. 6. 1-2. 福岡）櫻井 孝、清家 理、住垣千恵子、武田章敬、遠藤英俊、鳥羽研二 認知症を有する人と家族に対する早期教育的介入の必要性—認知症疾患医療センターにおける「もの忘れ教室」アクションリサーチからの考察—
 74. 第14回日本認知症ケア学会（2013. 6. 1-2. 福岡）清家 理、住垣千恵子、武田章敬、櫻井 孝、遠藤英俊、鳥羽研二 認知症介護当事者に対する「介護者支援人材育成プログラム」の効果測定研究—内発的動機づけに主眼を置いた「家族教室アドバンストコース」からの考察—
 75. 第14回日本認知症ケア学会（2013. 6. 1-2. 福岡）住垣千恵子、清家 理、遠藤英俊、櫻井 孝、鳥羽研二 診療と一体化した患者・家族支援プログラムの検討
 76. 第55回日本老年医学会（2013. 6. 4-6. 大阪）杉浦彩子、櫻井 孝、住垣千恵子、内田育恵、中島 務、鳥羽研二 認知症高齢者に対する耳垢除去介入の効果
 77. 第55回日本老年医学会（2013. 6. 4-6. 大阪）櫻井 孝、鳥羽研二 アルツハイマー型認知症における大脳白質病変・脳萎縮の局在と身体疾患との関連
 78. 第55回日本老年医学会（2013. 6. 4-6. 大阪）町田綾子、鳥羽研二、櫻井 孝、鷺見幸彦 IADLを用いた軽度認知症スクリーニング項目の検討
 79. 第55回日本老年医学会（2013. 6. 4-6. 大阪）松井康素、藤田玲美、原田 敦、櫻井 孝、根本哲也、野田信雄、鳥羽研二 高齢者身体機能測定用に開発中の新型握力計を用いた瞬発力に関する詳細な指標—女性患者における年齢群間の初期比較解析
 80. 第55回日本老年医学会（2013. 6. 4-6. 大阪）藤田玲美、松井康素、原田 敦、

櫻井 孝、根本哲也、野田信雄、鳥羽研二 高齢者の握力における瞬発力指標の低下についての検討

81. 第55回日本老年医学会 (2013. 6. 4-6. 大阪) 櫻井 孝、鳥羽研二 アルツハイマー型認知症における大脳白質病変・脳萎縮の局在と身体疾患との関連
82. 日本老年看護学会第 18 回学術集会 (2013. 6. 4-6. 大阪) 住垣千恵子、森山千晴、富田雄一郎、杉浦彩子、清家理、櫻井孝、鳥羽研二 第 15 群 認知症ケア C もの忘れ外来における高齢患者の耳垢蓄積の実態調査
83. Muscle from human to cell (May 3-4, 2013, Montreal) international conference. Yasumoto Matsui, MD , Remi Fujita, Atsushi Harada, Takashi Sakurai, Tetsuya Nemoto, Nobuo Noda , Kenji Toba. A new grip-strength measuring device for detailed evaluation of muscle contraction.
84. NCGG Seminar (June 21, 2013) Perspective of Center for Comprehensive Care and Research on Memory Disorders. Takashi Sakurai
85. The 16th Asia Pacific Regional Conference of Alzheimer' s Disease International (December 12, 2013 Hong Kong) Aya Seike, Hidetoshi Endo, Chieko Sumigaki, Akimasa Takeda, Takashi Sakurai, Kenji Toba
86. 第3回日本認知症予防学会 (2013. 9. 27-29. 新潟) 櫻井 孝 認知症の包括的管理と糖尿病治療
87. 第3回日本認知症予防学会 (2013. 9. 27-29. 新潟) 伊藤米美、松井佐知子、稲波悦子、櫻井 孝、千古吉孝、高田寛子、藤原みゆき 認知症早期ケアに繋がる地域での啓発の在り方とは？-出前検診におけるアンケートまとめからの検討-
88. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) シンポジウム7「脳小血管病と血管性認知症；その予防と治療戦略」老年症候群からみた脳小血管病 櫻井 孝、鳥羽研二
89. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 新畑 豊、鷲見幸彦、武田章敬、山岡朗子、堀部賢太郎、川合圭成、櫻井 孝、文堂昌彦、加藤隆司、伊藤健吾 血管性認知症とアルツハイマー病との鑑別およびco-morbidityに関する検討— 2
90. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 文堂昌彦、加藤隆司、中村昭範、澤戸稚保美、岩田香織、中坪大輔、新畑 豊、櫻井 孝、伊藤健吾 β アミロイドが蓄積した特発性正常圧水頭症とアルツハイマー病の比較
91. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 中村昭範、加藤隆司、山岸未沙子、岩田香織、文堂昌彦、服部英幸、櫻井 孝、新畑 豊、伊藤健吾、MULNIAD s

- tudy group Alzheimer病に伴う大脳皮質興奮性の変化：脳磁図による検討
92. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 大釜典子、櫻井 孝、鳥羽研二
アルツハイマー病認知症におけるBPSDと大脳皮質下病変・脳萎縮との関連
 93. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 清家 理、住垣千恵子、武田章敬、
遠藤英俊、櫻井 孝、Becker Carl、鳥羽研二 認知症患者および家族への多職種
による早期教育的支援の効果
 94. 第32回日本認知症学会 (2013. 11. 8-10. 松本) 添田美季、溝神文博、木ノ下智
康、市野貴信、伊藤一弘、櫻井 孝、鳥羽研二 もの忘れセンターにおける薬剤
師外来の取り組み
 95. ASIAN AGING SUMMIT 2013 (2013. 11. 12-14. 東京) シンポジウムVI 認知症予
防と進展予防の最前線 テーマ I 生活習慣病の予防は認知症予防につながるの
か 糖尿病治療で認知症を予防する
 96. 櫻井 孝
 97. 日本正常圧水頭症学会 (2014. 2. 1. 大阪) 国立長寿医療研究センター脳機能画像
診断開発部、物忘れ外来、脳神経外科 文堂昌彦、加藤隆司、櫻井 孝、澤戸稚
穂美、中坪大輔、伊藤健吾 iNPH症例のA β 蓄積が認知機能障害に及ぼす影響
 98. 第48回糖尿病学の進歩 (2014. 3. 7-8. 札幌) 櫻井 孝 認知症の抑制を目指した
糖尿病治療
 99. International Conference on Frailty and Sarcopenia Reseach (Barcelona M
arch 12-14, 2014). Sakurai T, Ogama N, Matsui Y, Toba K. Nutritional ch
anges and muscle weakness in Alzheimer disease
 100. International Conference on Frailty and Sarcopenia Reseach (Barcelona M
arch 12-14, 2014) Matsui Y, Fujita R, Harada A, Sakurai T, Nemoto T, No
da N, Toba K. The association of grip strength and related indices with
independence of ADL in the elderly, investigated by a newly-developed
grip strength measuring device.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

地域包括ケアを支える人材育成に関する研究

遠藤英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

研究要旨

初年度は、家族への介入に関する研究を行った。研究では介護者教室にグループワークを導入し、問題解決型介護者支援プログラムの開発を行い、その有効性について検討する。内容は短い講義の後に数名のグループワークを行い、地域での介護負担の軽減とボランティアなどの共助のグループの構築をめざし、最終的には認知症カフェに関わる人材育成に資する研究を行う。内容としては1 認知症の知識、2 傾聴、3 コミュニケーション、4 BPSDへの対処・ケア方法（徘徊・妄想など）、5 地域資源マップの作成と5回のセッションを行い、問題解決型家族教室の標準化を行った。研究方法としては、平成25年11月26日より平成26年1月22日まで5回の実践研修を行い、対象は介護者80名、評価内容はプログラム満足度、理解度、介護負担感、共助の意欲等を評価した。その結果、家族教室により介護負担は概ね軽減するが、患者のBPSDにより悪化するケースもあり、家族教育と共にBPSDの治療が並行して行われることが重要であった。

次年度の研究目的は、認知症の終末期は今後地域包括ケアを推進する上で重要な課題である。介護負担を軽減するためにも、在宅看取りのリーダーの育成は喫緊の課題である。非薬物療法のアプローチとしては傾聴と対話、タクティールケアなどがあるほか、認知症の人に回想法を行うと、同時に家族の負担が軽減するとの報告もある。今後介護者や介護職、看護職も含め、在宅看取りの知識の提供と支援体制の構築は欠かせないものとなる。そこで今回は、地域包括ケアを支える人材育成に関する研究を行った。介護負担の軽減を目指した地域包括ケアの担い手として、介護支援専門員、介護職、看護職を対象の研修会を開催した。特に今年度は認知症の終末期をテーマに在宅看取りに関する研修会を開催した。研修会は2時間の座学と3時間のグループワークからなっており、42名が参加した。座学では認知症の看取り、意志決定支援について学び、グループワークでは認知症の看取りの事例について、少人数の議論後その結果をグループごとに発表した。

3年目は地域包括ケアを支える人材育成に関する研究として、認知症に関わる介護人材の研修について、調査を行った。その結果、長年にわたり多くの研修が行われている。なかでも認知症介護指導者研修は介護報酬の加算の対象にもなっている。また新オレンジブ

ランにおいても、人材育成は重要な位置づけがなされ、研修数値目標が高く設定されているので、さらに増加が期待される。すなわち修了者の数も増加している一方で、その後のフォローアップの欠如、研修後の評価ができていないことが課題であることが明確となった。

初年度

目的) 初年度は、家族への介入に関する研究を行った。研究では介護者教室にグループワークを導入し、問題解決型介護者支援プログラムの開発を行い、その有効性について検討する。内容は短い講義の後に数名のグループワークを行い、地域での介護負担の軽減とボランティアなどの共助のグループの構築をめざし、最終的には認知症カフェに関わる人材育成に資する研究を行う。

方法) としては1 認知症の知識、2 傾聴、3 コミュニケーション、4 BPSDへの対処・ケア方法(徘徊・妄想など)、5 地域資源マップの作成と5回のセッションを行い、問題解決型家族教室の標準化を行った。研究方法としては、平成25年11月26日より平成26年1月22日まで5回の実践研修を行い、対象は介護者80名、評価内容はプログラム満足度、理解度、介護負担感、共助の意欲等を評価した。

結果と考察) 家族教室により介護負担は概ね軽減するが、患者のBPSDにより悪化するケースもあり、家族教育と共にBPSDの治療が並行して行われることが重要であった。また患者家族による認知症の模擬外来の立ち上げを行った。すなわち以下に示すPBLの実践を行った。家族や初期研修医の教育にも有用であることが示唆された。

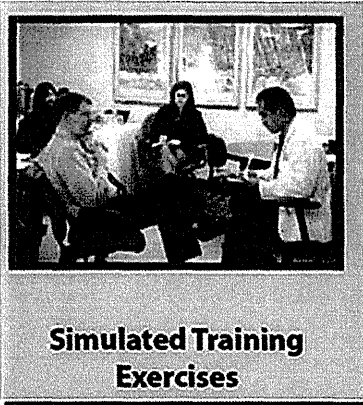
Problem Based Learning () using Standardized Patients

模擬患者・模擬学生を用いた指導セッション

詳細なシナリオ
訓練された模擬患者
繰り返し、実害なく

* 問題解決型授業

(Problem Based Learning: PBL)
知識を得る手法



次年度

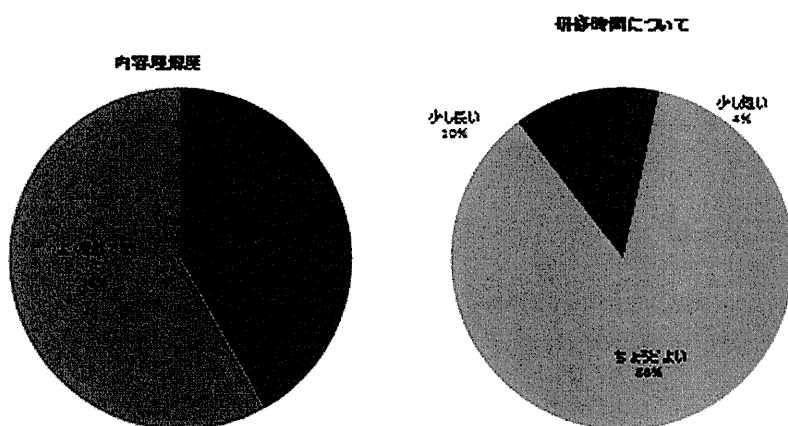
目的) 認知症の終末期は、今後地域包括ケアを推進する上で重要な課題である。介護負担を軽減するためにも、在宅看取りのリーダーの育成は喫緊の課題である。非薬物療法のアプローチとしては傾聴と対話、タクティールケアなどがあるほか、認知症の人に回想法を行うと、同時に家族の負担が軽減するとの報告もある。今後介護者や介護職、看護職も含め、在宅看取りの知識の提供と支援体制の構築は欠かせないものとなる。そこで今回は地域包括ケアを支える人材育成に関する研究を行った。

方法) 介護負担の軽減を目指した地域包括ケアの担い手として、介護支援専門員、介護職、看護職を対象の研修会を開催した。

結果と考察) 認知症の終末期をテーマに在宅看取りに関する研修会を開催した。研修会は2時間の座学と3時間のグループワークからなっており、42名が参加した。座学では認知症の看取り、意志決定支援について学び、グループワークでは認知症の看取りの事例について、少人数の議論後その結果をグループごとに発表した。結果としては多少内容が難しかったが、看取りの人材育成に対して効果的な研修であった。すなわちデータを取得できた対象者は男性1名、女性30名、経験年数は9年から29年の間で、在宅看取りの経験者15名、病院の看取りが14名、施設看取りの経験者は14名であり、一部複数回答を得た。研修の内容としては、理解度はまあまあ理解できたのを含めると100%であり、有用な内容かどうかの質問には少しが7%であったが、役にたつとの回答は93%であった。ただ難しい用語については32%の回答であった。

結論)この研修を通じて、介護者の負担軽減、さらには積極的に支援が可能となるとの結果を得た。こうした地域の人材育成は今後の地域包括ケアにおける生活支援に必要な研修であることが示唆された。

結果①



3年目

目的) 地域包括ケアを支える人材育成に関する研究として、認知症に関わる介護人材の研修について、調査を行った。

結果と考察) 長年にわたり多くの研修が行われている。なかでも認知症介護指導者研修は、報酬の加算の対象にもなっている。また新オレンジプランにおいても、人材育成は重要な位置づけがなされ、研修数値目標が高く設定されているので、さらに増加が期待される。すなわち修了者の数も増加している一方で、その後のフォローアップの欠如、研修後の評価ができていないことが課題であることが明確となった。介護負担の軽減を目指した地域包括ケアの担い手として、介護支援専門員、介護職、看護職を対象の研修会を開催した。特に今年度は認知症の介護職を中心とした、研修メニューとその修了者の総数把握を行った。今回は研修実数値の把握であり、行政当局への直接統計値に問い合わせを行った。介護福祉士は全国的に約104万人いるが、実務の就いている人は多くはなく、人材不足の原因になっている。介護福祉士ファーストステップは認知症ケアにも対応されているが、現在3756人の修了者がいる。日本介護福祉士会の認知症専門研修の修了者は101人である。平成28年度より認定介護福祉士の研修体制が創設されることとなっている。図2には認定介護

福祉士の仕組みを示した。役割の一つは地域包括ケアに資する人材育成にある。認知症に対しても大きな役割が期待される。認知症研修は、様々な職種に取り組みがなされているが、その役割や機能について、より詳細に把握する必要がある。機能としては、知識の取得に留まらず、他の職員への研修、教育をはじめ、よいケア体制の構築、さらには研究などの視点も必要であろう。認知症介護者をはじめ、修了者の数値ではなく、今後は機能で評価する方法が必要であろう。

認知症ケアに携わる介護従事者の研修

	認知症介護指導者研修	認知症介護実践リーダー研修	認知症介護実践者研修	認知症対応型サービス事業管理者研修	認知症対応型サービス事業担当者研修	小規模多機能型居宅介護サービス等計画作成担当者研修	認知症ケアに携わる多職種協働研修
修了者数 (平成26年度)	1,942	31,545	197,297	11,544	66,315	18,132	N/A
実施主体	都道府県・市町村 (認知症介護研究・研修センターによる)	都道府県・市町村		都道府県・指定都市		市町村	
補助率等		自治体一律対象		1/2国庫補助		39.5%国庫補助	
研修対象者	認知症介護について10年以上の現場実践経験をもつリーダー研修を受けた者	おおむね20年以上の現場経験をもつ、認知症研修受講後1年以上経過した者	おおむね2年程度の現場経験をもつ者	認知症対応型サービス事業を管理する者	認知症対応型サービス事業を担当する者	小規模多機能型居宅介護、複合型サービスの計画作成担当者	認知症ケアに関わる多職種協働者
研修内容	認知症介護実践研修 全般的な知識、実践、演習、実習を担当することのできる能力を身に付け、地域や事業所の介護の質の改善を図ることのできる者となるためのもの	実践研修で得られた知識・技術と自己研鑽、実践・事業所に於いて、チームケアを構築し、効果的に実践させる能力を有した者となるためのもの	認知症介護の理念、知識及び技術を修得するためのもの	管理者として事業所を管理していく上で必要な知識・技術を修得するためのもの	担当者として事業所を運営していく上で必要な知識・技術を修得するためのもの	小規模多機能型居宅介護、複合型サービスの計画と適切に作成する上で必要な知識・技術を修得するためのもの	認知症ケアにおける多職種協働の重要性等を理解するためのもの
研修時間	<標準> 研修・演習等 200分程度 +実習4時間	<標準> 研修・演習3420分 +実習 (研修時間4時間、実習時間1日等)	<標準> 研修・実習2160分 +実習 (研修時間4時間、実習時間1日等)	研修540分	研修・演習360分 +実習時間480分	研修540分	<標準> 研修・演習240分
要件、加算等	高付帯研修に該当し得る可能性がある	1名単位実習	研修受講者の研修が認定されている。	主任介護指導者または介護職員1名	施設長または事業所長1名	主任介護指導者または介護職員1名	

15

結論)

認知症介護指導者研修は、介護報酬の加算の対象にもなっている。また新オレンジプランにおいても、人材育成は重要な位置づけがなされ、研修数値目標が高く設定されているので、さらに増加が期待される。すなわち修了者の数も増加している一方で、その後のフォローアップの欠如、研修後の評価ができていないことが課題であることが明確となった。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 遠藤英俊、佐竹昭介、平野優、患者の立場に立ったBPSD対応法 老年精神医学雑誌：第26巻第11号，2015.11別刷
- 2) 遠藤英俊、認知症の予防 内科医からみた認知症予防：42巻1号，31-38，2016
- 3) Hiroyuki Umegaki, Madoka Yanagawa, Zen Nonogaki, Hirotaka Nakashima,

Masafumi Kuzuya, Hidetoshi Endo, Burden reduction of caregivers for users of care services provided by the public long-term care insurance system in Japan, Archives of Gerontology and Geriatrics, 58:130–133,2014

- 4) Masahiro Akishita, Shinya Ishii, Taro Kojima, Koichi Kozaki, Masafumi Kuzuya, Hidenori Arai, Hiroyuki Arai, Masato Eto, Ryutaro Takahashi, Hidetoshi Endo, Shigeo Horie, Kazuhiko Ezawa, Shuji Kawai, Yozo Takehisa, Hiroshi Mikami, Shogo Takegawa, Akira Morita, Minoru Kamata, Yasuyoshi Ouchi, Kenji Toba Priorities of Health Care Outcomes for the Elderly JAMDA 14(7):479-484,2013
- 5) Hiroyuki Umegaki, Madoka Yanagawa, Zen Nonogaki, Hirotaka Nakashima, Masafumi Kuzuya, Hidetoshi Endo Burden reduction of caregivers for users of care services provided by the public long-term care insurance system in Japan Archives of Gerontology and Geriatrics 58:130-133,2014
- 6) Kenji Toba, Yu Nakamura, Hidetoshi Endo, Jiro Okochi, Yukiko Tanaka, Chiyako Inaniwa, Akira Takahashi, Naoko Tsunoda, Kentaro Higashi, Motoharu Hirai, Hiroyuki Hirakawa, Shizuru Yamada, Yohko Maki, Tomoharu Yamaguchi and Haruyasu Yamaguchi Intensive rehabilitation for dementia improved cognitive function and reduced behavioral disturbance in geriatric health service facilities in Japan Geriatr Gerontol Int 2013 May 6.
- 7) 遠藤英俊 アルツハイマー型認知症治療薬の薬剤選択基準 新薬と臨床 62(1), 2013

2. 学会発表

- 1) Shohei Kato, Hidetoshi Endo, Risako Nagata, Takuto Sakuma, Keita Watanabe. Toward Personalized Cognitive Training for Elderly with Mild Cognitive Impairment Using Cerebral Blood Flow Activation The 27th Annual Conference of Japanese Society for Artificial Intelligence (人工知能学会第27回全国大会) Toyama, June 4-7, 2013 Session: IOS-1 COGNITIVE TRAINING AND ASSISTIVE TECHNOLOGY FOR AGING
- 2) Shohei Kato, Hidetoshi Endo, Akira Homma, Takuto Sakuma, Keita Watanabe. Early Detection of Cognitive Impairment in the Elderly Based on Bayesian Mining Using Speech Prosody and Cerebral Blood Flow Activation The 35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC'13) July 4-7, 2013, Osaka, Japan
- 3) 遠藤英俊、佐竹昭介、鳥羽研二：基礎疾患の異なる個々の患者に最適な具体的支援策とは、第29回日本医学会総会、2015年4月11日(土)、京都
- 4) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人：認知課題遂行時脳血流のMCIサブタイプ比較分析. 第54回日本生体医工学会大会、2015年5月7-8日、名古屋市熱田区。
- 5) 遠藤英俊、「総合評価加算について(オリエンテーション)」第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学、2015.6.12(金)横浜
- 6) 遠藤英俊、「高齢者在宅医療」第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学、2015.6.12(金)横浜
- 7) 遠藤英俊、「認知症の薬物治療～包括的医療の今後の展望を踏まえて～」第57回日本老年医学会 ランチョンセミナー(武田薬品)、2015.6.13(土)横浜
- 8) 遠藤英俊、「高齢者総合機能評価 計画の作成」第57回日本老年医学会 高齢者医療研修会 ワークショップ、2015.6.14(日)横浜
- 9) 遠藤英俊、「認知症ケア最前線—予防、治療と対応法—」第14回日本ケアマネジメント学会 モーニングセミナー、2015.6.14(日)横浜
- 10) 溝神文博、服部英幸、西原恵司、遠藤英俊、古田勝経、磯貝善蔵、薬物誘発性褥瘡～高齢者における新たな薬物有害事象～、第57回日本老年医学会 一般演題 口述発表

- O-78, 2015.6.14(日)横浜
- 11) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、三浦久幸、遠藤英俊、CPAP外来における高齢睡眠時無呼吸症候群患者の大府研究基準を用いたフレイルの評価、第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-43, 2015.6. 13(土)横浜
 - 12) 遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸、西川満則、高梨早苗、平野優、終末期医療に関する医学・看護教育の現状に関する研究、第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表 P-77, 2015.6.13(土)横浜
 - 13) 佐竹昭介、千田一嘉、洪 英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉基本チェックリスト総合点による健康障害発生の予測、第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-119, 2015.6.14(日)横浜
 - 14) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人、認知課題遂行時脳血流のMCIサブタイプ比較分析、第54回日本生体医工学会大会, 2015.5.7(木)-9(土)
 - 15) 遠藤英俊、新しい高齢者医療とケア～認知症と終末期看護を中心に～、第18回日本腎不全看護学会学術集会 特別講演2, 2015.11.15(日)名古屋
 - 16) 遠藤英俊、内科医からみる認知症と地域包括ケアシステム、第35回日本社会精神医学会 シンポジウム5, 2015. 2. 29(金)岡山
-
- 17) 梅本充子、神保太樹、柴田悦代、遠藤英俊 (内科総合診療部) 地域在住高齢者における匂いを使った回想法の有効性. 第 28 回日本老年精神医学会, 2013 年 6 月 5 日, 大阪府
 - 18) 清家理、住垣千恵子、武田章敬、櫻井孝、遠藤英俊、鳥羽研二. 認知症介護当事者に対する「介護者支援人材育成プログラム」の効果測定研究 -内発的動機づけに主眼を置いた「家族教室アドバンストコース」からの考察-. 第 14 回日本認知症ケア学会大会, 2013 年 6 月 2 日, 福岡県

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

(H25～H27年度) 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
鳥羽研二		監修) 鳥羽研二 編集) 武田章敬 清家理	患者さんご家族から学ぶ 認知症なんでも相談室- 国立長寿医療研究センター 編-	メディカルレビュー社	東京	2014	143頁
佐々木英忠、鳥羽研二、荒井啓行、秋下雅弘			老年看護 病態・疾患論	医学書院	東京	2014	320頁
山口晴保			認知症にならない・負けない生き方	サンマーク出版	東京	2014	26頁
山口晴保		山口晴保	認知症予防：読めば納得！脳を守るライフスタイルの秘訣、2版	協同医書出版	東京	2014	254頁
山口晴保	認知症の予防	苛原実	認知症の方の在宅医療. 改定2版	南山堂	東京	2013	136-146
梅垣宏行	・サルコペニア ・認知症と運動	荒木 厚	ココに注意！高齢者の糖尿病	羊土社	東京	2015	156-160, 180-184
梅垣宏行	フレイルと認知症 (精神心理的側面)	葛谷雅文・ 雨海照祥	フレイル 超高齢社会における最重要課題と予防戦略	医歯薬出版株式会社	東京	2014	Part 3
Matsubayashi K	How did people come to live in the highlands? – Physiological and evolutionary adaptation perspectives. In Aging, Diseases and Health in the Himalayas and Tibet: Medical, Ecological and Cultural Viewpoints	Okumiya K	Rubi Enterprise	Dhaka	Bangladesh	2014	17-31

Matsubayashi K	Aging, Diseases, Death and Purpose of Life in Qinghai-Common Ground for the Agricultural Han and the Herding Tibet- In Aging, Diseases and Health in the Himalayas and Tibet: Medical, Ecological and Cultural Viewpoints	Okumiya K	Rubi Enterprise	Dhaka	Bangladesh	2014	143-170
松林公蔵	高齢化するアジアと蔓延する糖尿病への対策-フィールド医学の現場から-	地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会編	地域研究13(1)	昭和堂	日本	2013/3	212頁
鷺見幸彦	年齢に伴うもの忘れとアルツハイマー型認知症で見られるもの忘れの区別が難しいのですが、どのように鑑別したらよいですか？鑑別するコツを教えてください	川畑信也	治療特別編集 認知症でお困りですか？	南山堂	東京	2013	23-26
櫻井 孝	認知症の基礎知識	浦上克哉	内科医のための 認知症診療 はじめの一歩	羊土社	東京都	2014	12-23
櫻井 孝	認知症の予防	NPO法人健康な脳づくり ゆいぼおと	認知症にならないために	KTC中央出版	東京都	2014	17-47
櫻井 孝	認知障害	荒木栄一	シリーズ「糖尿病臨床のすべて」	中山書店	東京	2013	198-204
櫻井 孝、 中田由香子、 安田尚史、 岸上景子、 矢谷宏文、 原賢太、 永田正男、 横野浩一	ジスチグミンによるコリン作動性クラーゼをきたした高齢者の症例	秋下雅弘、 葛谷雅文	症例から学ぶ「高齢者の安全な薬物療法」	ライフサイエンス	東京	2013	75-79
櫻井 孝	認知機能と脳萎縮	荻尾七臣 斎藤能彦 長谷部直幸 弓倉 整	高血圧診療のすべて	診断と治療社	東京	2013	S174-S175

櫻井 孝	高齢期における生活習慣病と老年症候群の考え方	柳澤信夫	長寿科学研究業績集「高齢期における生活習慣病」	公益財団法人長寿科学振興財団	愛知	2013	177-190
櫻井 孝	糖尿病による認知障害(代謝性脳症)の特徴	川畑信也	「治療」別冊「認知症でお困りですか? かかりつけ医のギモンにお答えします」	南山堂	東京	2013	221-225
服部英幸	意欲喪失患者のケア	福井次矢	今日の治療指針2015	医学書院	東京	2015	1491-1492
服部英幸	入院高齢者によくみられる症候～老年症候群～BPSD	神崎恒一	入院高齢者診療マニュアル	文光堂	東京	2015	133-144
Hattori H	Unclassified cases of behavioral variant of major frontotemporal neurocognitive disorder in the Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 5th edition	井口明久	Geriatr Gerontol Int	日本老年医学会	東京	2014	35-44
服部英幸	高齢者に多い症候・抑うつ	大庭建三	すぐに使える高齢者総合診療ノート	日本医事新報社	東京	2014	52-57
服部英幸	認知症とせん妄の違いは	武藤芳照、鈴木みずえ	認知症者の転倒予防とリスクマネジメント	日本医事新報社	東京	2014	33-38
服部英幸	フレイルとうつ	葛谷雅文、雨海照祥	フレイル、超高齢社会における最重要課題と予防戦略	医歯薬出版	東京	2014	72-77
服部英幸	心気症・不安障害	朝田 隆	認知症とその他の疾患の鑑別	医学書院	東京	2013	77-98
鈴木俊夫、佐藤裕邦、荒木乳根子、遠藤英俊	薬剤とセクシュアリティ		高齢者の在宅・施設介護における性的トラブル対応法	黎明書房	愛知県	2015	127-131
遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸	IV章知能の衰への心理学・社会学介護保険制度の考え方	池田 学	脳とこころのプライマリケア[2]知能の衰え	株式会社シナジー	東京	2013	129-139

遠藤英俊	インフォームドコンセントのための 図説シリーズ 認知症の予防と生活指導			医薬ジャーナル社	大阪	2013	全75
加藤昇平、 遠藤英俊	第2編 モニタリングデバイス・システム研究開発の最前線 第5章 音情報 第2節 音声韻律・脳血流情報を用いた認知症早期スクリーニング支援技術の開発		パーソナル・ヘルスケア・ユビキタス、ウェアラブル医療実現に向けたエレクトロニクス研究最前線	株式会社エヌ・ティー・エス	東京	2013	201-209

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakashima T, Sugiura S, Nagahawa S, Yasue M, Inui Y, Sakurai T, Uchida Y, Sone M, Teranishi M, Yoshida T, Ito K, Toba K.	Cerumen impaction shown by brain magnetic resonance imaging in patients with cognitive impairment.	Geriatr Gerontol Int.	16(3)	392-395	2016
Ogama N, Yoshida M, Nakai T, Niida S, Toba K, Sakurai T.	Frontal white matter hyperintensity predicts lower urinary tract dysfunction in older adults with amnesic mild cognitive impairment and Alzheimer's disease.	Geriatr Gerontol Int.	16(2)	167-174	2016
Sugimoto T, Ono R, Murata S, Saji N, Matsui Y, Niida S, Toba K, Sakurai T.	Prevalence and associated factors of sarcopenia in elderly subjects with amnesic mild cognitive impairment or Alzheimer's disease.	Curr Alzheimer Res.	[Epub ahead of print]		2016
佐治直樹、荒井秀典、櫻井孝、鳥羽研二	フレイルとサルコペニアー認知症との新たな接点ー	日本臨牀	74(3)	505-509	2016
鳥羽研二	高齢者ケア実践事例集 認知症ケア総論	第一法規	追録第68-79号	965-974	2016

Ogama N, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T.	Validation of a simple and reliable visual rating scale of white matter hyperintensity comparable with computer-based volumetric analysis.	Geriatr Gerontol Int.		83-85	2015
Shimizu A, Kokubo M, Mitsui T, Miyagi M, Nomoto K, Murohara T, Toba K, Sakurai T.	Left ventricular diastolic dysfunction is directly associated with cerebral white matter lesions in elderly patients.	Geriatr Gerontol Int.		81-82	2015
Kokubo M, Shimizu A, Mitsui T, Miyagi M, Nomoto K, Murohara T, Toba K, Sakurai T.	Impact of night-time blood pressure on cerebral white matter hyperintensity in elderly hypertensive patients.	Geriatr Gerontol Int.		59-65	2015
Saji N, Ogama N, Toba K, Sakurai T.	White matter hyperintensities and geriatric syndrome: An important role of arterial stiffness.	Geriatr Gerontol Int.		17-25	2015
Yasue M, Sugiyara S, Uchida Y, Otake H, Teranishi M, Sakurai T, Toba K, Shimokata H, Ando F, Otsuka R, Nakashima T.	Prevalence of Sinusitis Detected by Magnetic Resonance Imaging in Subjects with Dementia or Alzheimer's Disease.	Curr Alzheimer Res.	12(10)	1006-1011	2015
Fukuoka H, Nagaya M, Toba K.	The occurrence of visual and cognitive impairment, and eye diseases in the super-elderly in Japan: a cross-sectional single-center study.	BMC Res Notes.		619	2015
井藤英喜、鳥羽研二、秋下雅弘、弓倉 整	【座談会】超高齢社会において医療、医療従事者の果たすべき役割	日本医師会雑誌	144(11)	2213-2223	2015

Arai H, Ouchi Y, <u>Toba K</u> , Endo T, Shimokado K, Tsubota K, Matsuo S, Mori H, Yumura W, Yokode M, Rakugi H, Ohshima S	Japan as the frontrunner of super-aged societies: Perspectives from medicine and medical care in Japan.	Geriatr Gerontol Int	15(6)	673-687	2015
鳥羽研二	フレイルの概念と予防	J Journal of Rehabilitation Medicine	52(1)	51-54	2015
Iijima S, Aida N, Ito H, Endo H, Ohrui T, Sodai T, <u>Toba K</u> , Harara K, Momose Y, Uemura K, Nakano H, Miura H, Kuzuya M.	Position statement from the Japan Geriatrics Society 2012: End-of-life care for the elderly.	Geriatr Gerontol Int.	14(4)	735-739	2014
N Kaneko, A Nakamura, Y Watanabe, T Kato, T Sakurai, Y Arahata, M Bundo, A Takeda, S Niida, K Ito, <u>K Toba</u> , K Yanagisawa	Novel plasma biomarker surrogating cerebral amyloid deposition.	Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci	90(9)	353-364	2014
Sakurai T, Ogasuma N, <u>Toba K</u>	Lower vitamin D is associated with white matter hyperintensity in elderly women with Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment.	J Am Geriatr Soc	62(10)	1993-1994	2014
Shimizu A, Sakurai T, Mitsui T, Miyagi M, Nomoto K, Kokubo M, Bando Y, K, Murohara T, <u>Toba K</u>	Left ventricular diastolic dysfunction is associated with cerebral white matter lesions (leukoaraiosis) in elderly patients without ischemic heart disease and stroke.	Geriatr Gerontol Int.	14(Suppl2)	71-76	2014
Sakurai T, Kawashima S, Satake S, Miura H, Tokuda H, <u>Toba K</u>	Differential subtypes of diabetic older adults diagnosed with Alzheimer's disease.	Geriatr Gerontol Int.	14(Suppl2)	62-70	2014

Sugiura S, Yasue M, Sakurai T, Sumigaki C, Uchida Y, Nakashima T, Toba K	Effect of cerumen impaction on hearing and cognitive functions in Japanese older adults with cognitive impairment.	Geriatr Gerontol Int	14(Suppl2)	56-61	2014
Kamiya M1, Sakurai T, Ogama N, Maki Y, Toba K	Factors associated with increased caregivers' burden in several cognitive stages of Alzheimer's disease.	Geriatr Gerontol Int	14(Suppl2)	45-55	2014
Seike A, Sumigaki C, Takeda A, Endo H, Sakurai T, Toba K	Developing an interdisciplinary program of educational support for early-stage dementia patients and their family members: an investigation based on learning needs and attitude changes.	Geriatr Gerontol Int	14(Suppl2)	28-34	2014
Washimi Y, Horibe K, Takeda A, Abe T, Toba K	Educational program in Japan for Dementia Support Doctors who support medical and care systems as liaisons for demented older adults in the community.	Geriatr Gerontol Int	14(Suppl2)	11-16	2014
Ogama N, Sakurai T2, Shimizu A1, Toba K	Regional white matter lesions predict falls in patients with amnesic mild cognitive impairment and Alzheimer's disease.	J Am Med Dir Assoc.	15(1)	36-41	2014
鳥羽研二	認知症医療の在宅医療の現状と今後の方向性	公衆衛生情報	11	6-7	2014
Y Matsui, R Fujita, A Harada, T Sakurai, T Nemoto, N Noda, K Toba	A new grip strength measuring device for detailed evaluation of muscle contraction among the elderly.	Journal of Frailty & Aging	3(3)	142-147	2014
鳥羽研二	認知症医療の現状と今後の方向性	保健の科学	56(8)	541-544	2014
鳥羽研二	認知症の予防と治療、ウイズエイジングの考え方	杏林医学会誌	45(2)	67-68	2014
鳥羽研二	高齢者のフレイル（虚弱）とリハビリテーション 高齢者のフレイルとは	全日本病院出版会	170	1-5	2014

鳥羽研二	グループホームの共同生活は最高の“非薬物療法”	日本認知症グループホーム誌 ゆったり	3・4月号	10-11	2014
鳥羽研二	臨床医学の展望2014 老年病学	日本医事新報	No.4685	44-48	2014
Toba K, Nakamura Y, Endo H, Okochi J, Tanaka Y, Inaniwa C, Takahashi A, Tsunoda N, Higashi K, Hirai M, Hirakawa H, Yamada S, Maki Y, Yamaguchi T, Yamaguchi H	Intensive rehabilitation for dementia improved cognitive function and reduced behavioral disturbance in geriatric health service facilities in Japan.	Geriatr Gerontol Int	14(1)	206-211	2014
Shibasaki K, Otagawa S, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Akishita M, Ouchi Y	Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of older adults in long-term care.	Geriatr Gerontol Int	14(1)	159-166	2014
Nagai K, Shibata S, Akishita M, Sudoh N, Obara T, Toba K, Kozaki K.	Efficacy of combined use of three non-invasive atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated dilation of brachial artery and pulse wave velocity.	Atherosclerosis	231(2)	365-370	2013
Akishita M, Ishii S, Kojima T, Kozaki K, Kuzuya M, Arai H, Arai H, Eto M, Takahashi R, Endo H, Horie S, Ezawa K, Kawai S, Takehisa Y, Mikami H, Takegawa S, Morita A, Kamata M, Ouchi Y, Toba K	Priorities of health care outcomes for the elderly.	J Am Med Dir Assoc	14(7)	479-484	2013
町田綾子、鳥羽研二、櫻井孝、鷺見幸彦	手段的日常生活動作を用いた軽度認知症スクリーニング項目の検討	日本老年医学会雑誌	50(2)	266-267	2013

木村紗矢香、山田如子、町田綾子、杉浦彩子、鳥羽研二、神崎恒一	高齢者の耳掃除と高齢者総合的機能評価	日本老年医学会雑誌,	50	264-265	2013
Komatsu H, Furuya Y, Sawada K, <u>Asada T.</u>	Involvement of the strychnine-sensitive glycine receptor in the anxiolytic effects of GlyT1 inhibitors on maternal separation-induced ultrasonic vocalization in rat pups.	Eur J Pharmacol.	746	252-257	2015
Bun S, Ikejima C, Kida J, Yoshimura A, Lebowitz AJ, Kakuma T, <u>Asada T.</u>	A Combination of Supplements May Reduce the Risk of Alzheimer's Disease in Elderly Japanese with Normal Cognition.	J Alzheimers Dis.	Epub ahead of print		2014
Otaki M, Moriguchi K, Lebowitz A, <u>Asada T.</u>	Memories of falling in elderly patients with dementia: response concordance rate and reproducibility.	Psychogeriatrics.	Epub ahead of print		2014
Ikejima C, Ikeda M, Hashimoto M, Ogawa Y, Tanimukai S, Konashibayashi T, Miyanaga K, Yonemura K, Kakuma T, Murotani K, <u>Asada T.</u>	Multicenter population-based study on the prevalence of early onset dementia in Japan: vascular dementia as its prominent cause.	Psychiatry Clin Neurosci.	68(3)	216-224	2014
Omori C, Kaneko M, Nakajima E, Akatsu H, Waragai M, Maeda M, Morishima-Kawashima M, Saito Y, Nakaya T, Taru H, Yamamoto T, <u>Asada T.</u> Hata S, Suzuki T	Increased levels of plasma p3-Alcα35, a major fragment of Alcα35, are cleaved by γ-secretase cleavage, in Alzheimer's disease.	J Alzheimers Dis.	39(4)	861-870	2014
Mizukami K, Abrahamson EE, Mi Z, Ishikawa M, Watanabe K, Kinoshita S, <u>Asada T.</u> Ikoyanomovic MD.	Immunohistochemical analysis of ubiquitin-1 in the human hippocampus: association with neurofibrillary tangle pathology.	Neuropathology.	34(1)	11-18	2014

Endo G, Tachikawa H, Fukuoka Y, Aiba M, Nishimoto K, Shiratori Y, Matsui Y, Doi N, Asada T.	How perceived social support relates to suicidal ideation: a Japanese social resident survey.	Int J Soc Psychiatry.	60(3)	290-298	2014
Shiratori Y, Tachikawa H, Nishimoto K, Endo G, Aiba M, Matsui Y, Asada T.	Network analysis for motives in suicide cases: a cross-sectional study.	Psychiatry Clin Neurosci.	68(4)	299-307	2014
Yamane T, Ikarashi Y, Nishio T, Ishii K, Ishii K, Kato T, Ito K, Silverman DH, Senda M, Asada T, Arai H, Sugishita M, Iwatsubo T, J-ADNI Study Group.	Visual-statistical interpretation of (18)F-FDG-PET images for characteristic Alzheimer patterns in a multicenter study: interrater concordance and relationship to automated quantitative evaluation.	AJNR Am J Neuroradiol.	35(2)	244-249	2014
Choy-Lye Chei, Kazumasa Yamagishi, Ai Ikeda, Hiroyuki Noda, Minako Maruyama, Renzhe Cui, Hironori Imano, Masahiko Kiyama, Akihiro Kitamura, d, Takashi Asada, Hiroyasu Iso, for the CIRCS Investigators	C-reactive protein levels and risk of disabling dementia with and without stroke in Japanese:	Atherosclerosis	236(2)	438-443	2014